

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 商学部 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 |
| 中項目 | 6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 |
| 小項目 | 6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。 |
| 要素 | 学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示 |
| 小項目 | 6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。 |
| 要素 | 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示 |
| 小項目 | 6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。 |
| 要素 | 周知方法と有効性 社会への公表方法 |
| 小項目 | 6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| 要素 | |

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|--|---|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 教育目標を達成すべく、専門科目の2単位化、専門基礎教育の強化、演習科目の再構築、進級条件の設定、卒業要件の変更など、教育課程を見直す。 | →教育課程に係わる規程等の改正 | B | B | A | A | A |
| 2. 寄附講座等、産業界との連携による実学的講座の拡充する。 | →寄附講座の開講数、受講者数および授業評価結果、講演会・セミナーなどの開催数 | B | B | A | A | A |
| 3. 教育課程再編成の効果と問題点を継続的に評価し改善する。 | →点検・評価活動に関する研究会の開催数および改善策の提言・実施状況、教員および学生による授業評価結果、GPA・平均点の状況 | B | B | B | B | B |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

| | | | |
|-----|---|---|------------------|
| 目標1 | A | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2009年度には目標に関する基本方針の教授会決定、2010年度および2011年度の2年間で実行可能性の検証、2単位化に伴う科目名の変更、シラバスの作成、学則および商学部に内規の改正その他の適用準備をそれぞれ行い、2012年4月入学生から適用を開始した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2012年度入学生から適用のカリキュラムについて、現時点では特段の課題・改善点は見受けられない。なお、2単位化により実質的に成績評価のインターバルが短縮されたことは、教員・学生双方にとって有益であったと思われる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部ファカルティ・ディベロップメント委員会等において継続的に検証を行うとともに、学部将来構想委員会において演習科目の再構築ならびに進級条件の設定について、検討に着手している。また、教育課程をより明確にするため、科目ナンバリングの実施に向けた準備に着手している。</p> <p>その他</p> | ☆ ☆ ☆ ☆ |
| 目標2 | A | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 寄附講座の開講、産業界との連携による実学的講座の維持・拡充に継続的に取り組むとともに、商科開設100年記念講演会の開催を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度については、寄附講座開講数9科目、受講者数2007名、学術講演会開催数3回、商科100年記念講演会1回であった。寄附講座開講数については、2012年度の9科目と同水準維持し、受講者数は2012年度の1,671名から増加している。講演会等については2012年度の8回から減少している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度についても、商科開設100年記念講演会の開催を継続することで、産業界と連携した講演会等を実施する予定である。寄附講座については、産業界側の厳しい事情をふまつつも、大学との連携の意義等について更なる意思疎通を図り、維持拡充に努める。</p> <p>その他</p> | ☆ ☆ ☆ ☆ |
| 目標3 | B | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 点検・評価活動に関して、2013年度においても、学部執行部とは別に、学部ファカルティ・ディベロップメント委員会による検証を継続的に行った。同委員会では、ファカルティ・ディベロップメントの観点から活性化に向け検証を行い、2013年度末に中間答申が取りまとめられた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教授会構成員全員が原則として参加するファカルティ・ディベロップメント教授研究会を2013年度には2回開催した。GPA・平均点の状況については、2012年度とほぼ同一の水準であり、特段の変化は見受けられない。学生による授業調査結果については、本学の他学部と同程度の評価であり、全般的に改善傾向がみられる。なお、学部ファカルティ・ディベロップメント委員会の中間答申において、科目ナンバリングの重要性が課題として指摘された。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部ファカルティ・ディベロップメント委員会等において、引き続き授業改善への取り組みを行うとともに、科目ナンバリングの実施に向けて準備を行うこととした。</p> <p>その他</p> | ☆ ☆ ☆ ☆ |
| 備考 | | | ☆ |